

令和3年3月9日

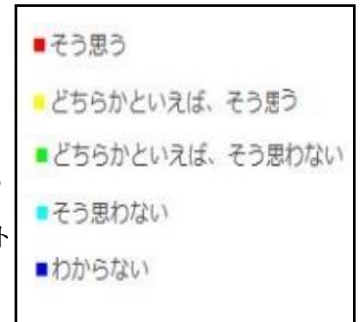
保護者様

横浜市立釜利谷南小学校
校長 田中 さくら

学校評価アンケートの結果と考察について

保護者の皆様には、日頃より横浜の教育の推進に対する、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

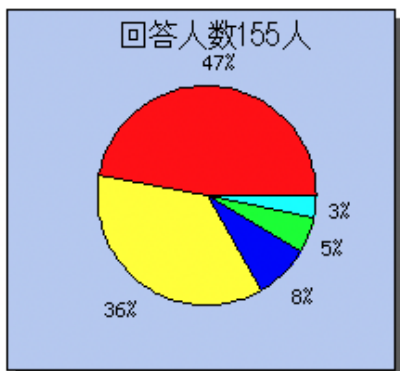
さて、学校評価へのご協力ありがとうございました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、学校への来校が難しい中ですが、学校・学年だより、HPや動画配信など、学校からの情報発信に努めました。保護者様と児童のアンケート結果と考察を載せていますので、ご確認ください。



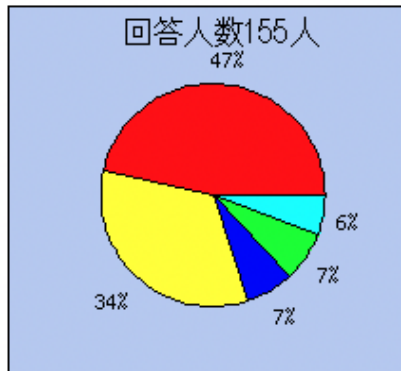
学校評価アンケート（保護者）

児童数 300 人、家庭数 241 人（令和2年12月アンケート時）

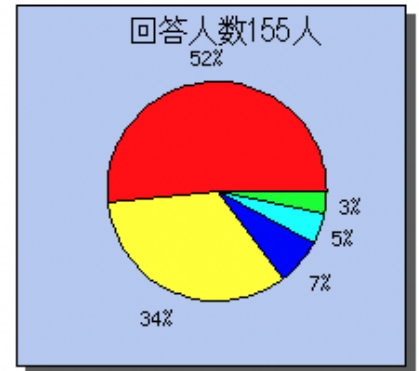
①学校は、学力の基礎・基本の定着を図っている。（ニレの木タイム・ドリル学習・少人数指導など）



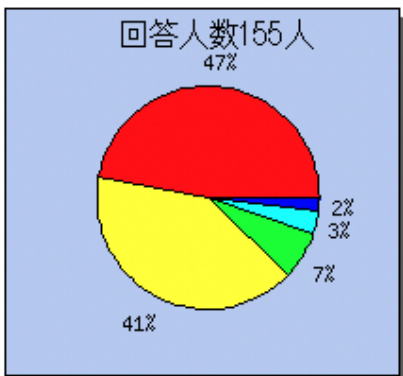
②学校は、進んで挨拶する子どもたちを育てている。（ドレミファの合言葉、集会での劇など）



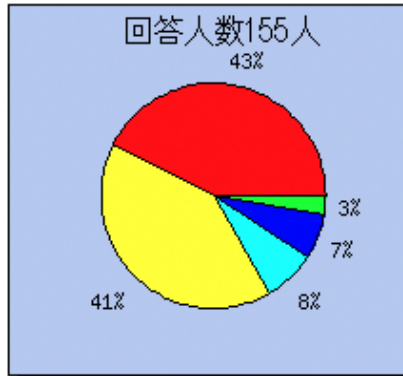
③学校は、人を思いやって行動する子どもたちを育てている。（たてわり活動など）



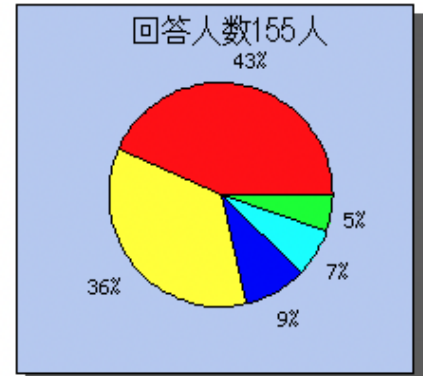
④学校は、体力向上に務めている。（姿勢体操、なわとび集会、外遊び推奨など）



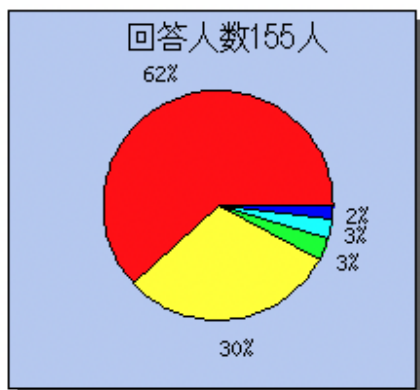
⑤学校は、適切に児童指導を行っている。（情報の職員の共有化、チームでの児童指導など）



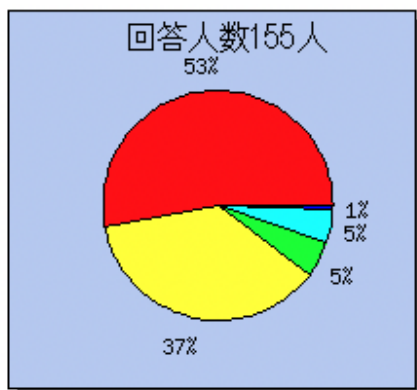
⑥学校は、一人ひとりの児童に応じた指導や支援を行っている。（教職員の研修・協力）



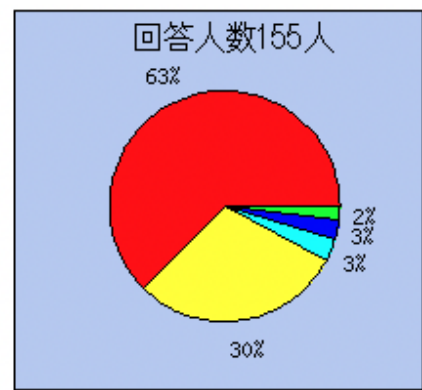
⑦学校は、学校の情報を分かりやすく発信している。(おたより・HP・メール配信・動画配信など)



⑧学校は、子どもたちの様子を分かりやすく伝えている。(個人面談・成績表など)



⑨学校は、安全・安心に活動できる環境づくりを図っている。(感染症対策・避難訓練・安全点検など)



考察

②「あいさつ」や③「思いやり」の項目が昨年度に比べてポイントが落ちました。コロナ禍であいさつ運動やたてわり活動の制限が多かったことが要因だと考えています。来年度以降、情勢が許す限り、以前のように、あいさつ運動やたてわり活動を行ってきたいと思います。

④「体力向上」については、よい評価をいただきました。4月、5月と学校の休校の影響か、児童の体力はずいぶん落ちていました。しかし、なわとび集会や外遊びの推奨などを含め、普段からの学校生活が体力の向上に寄与していることを評価していただいたと考えています。今後も、普段から運動しようとする思いを育てていきたいと思っています。

⑦⑧「子どもの様子、情報を伝えている」の項目もよい評価をいただきました。今年度は、メール配信や学校HPの更新を頻繁に行ったり、校外学習の様子や説明会を動画配信したりしたことが評価をいただいたと考えます。引き続き、学校HPの更新や動画配信、学校・学年だよりの情報発信に努めながら、いろいろな場面で、より保護者のみなさまに学校の様子をお伝えしていきたいと考えています。

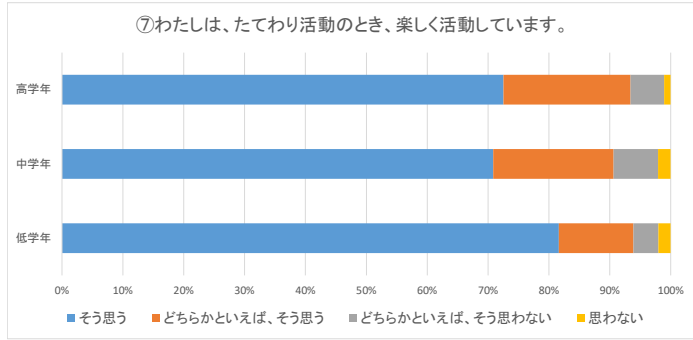
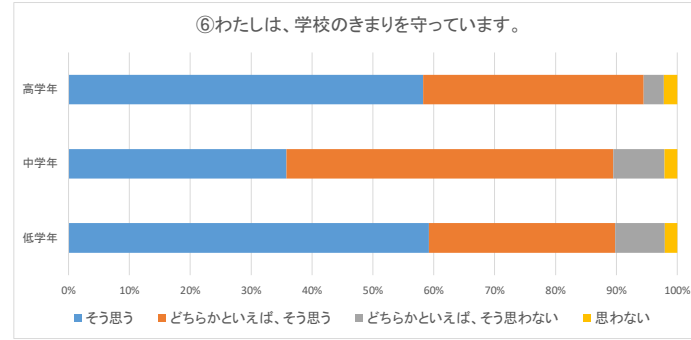
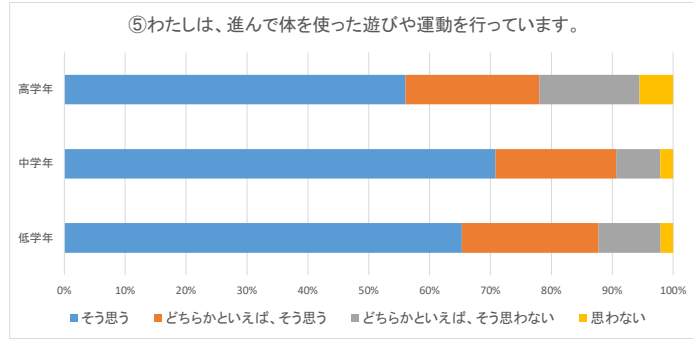
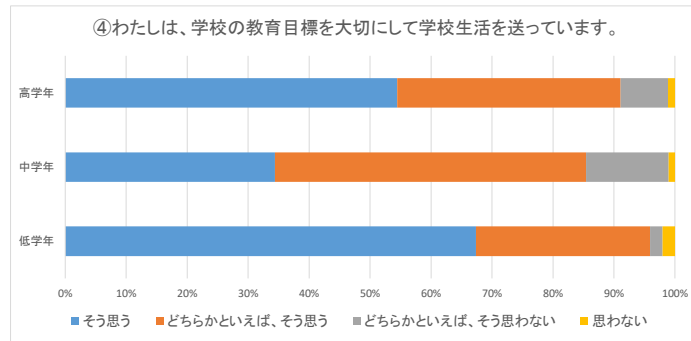
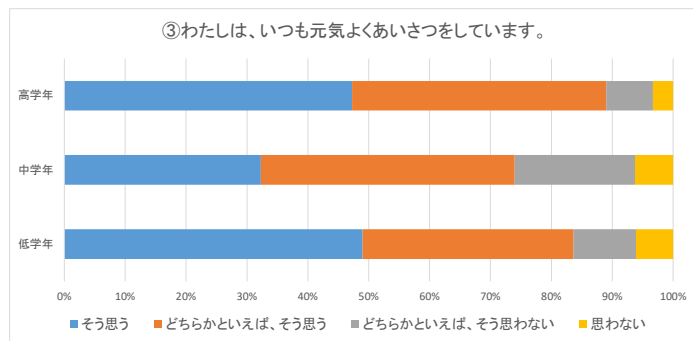
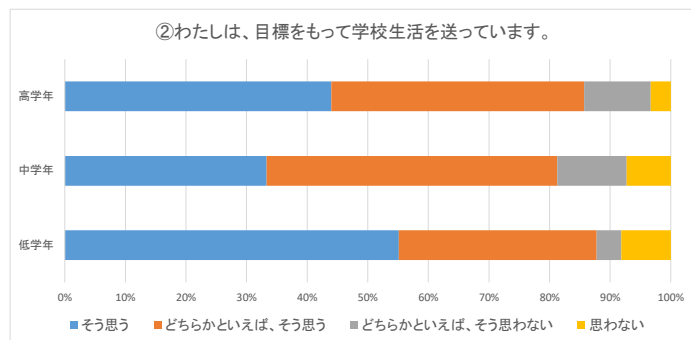
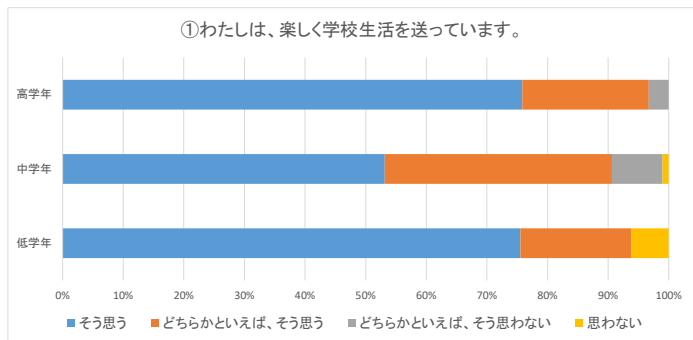
保護者のお声

【登校班】登校班について、連絡帳を無くした事でお休みの子がいた場合お母さん同士のメール連絡に気づかず、来ていないとなってしまう、遅刻ぎりぎりになってしまう事がある。

【情報】・コロナ禍においての決定事項の伝達がとても迅速だと思いました。またリモート学習のマニュアルもわかりやすく今後もスムーズに対応していただけると期待しています。・HPやマチコミなど、様々な形式での情報発信や共有を行って頂けるのは、共働き世帯にとって本当に助かります！

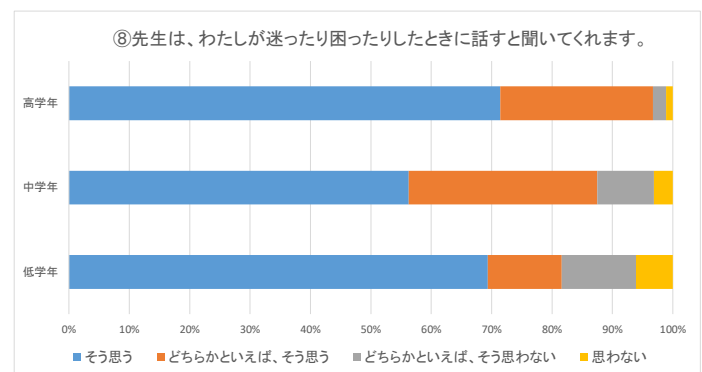
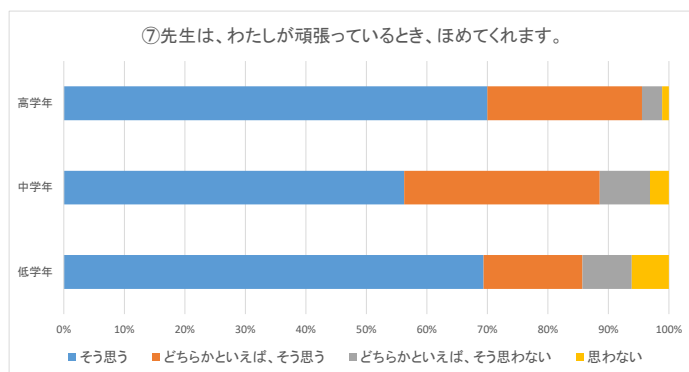
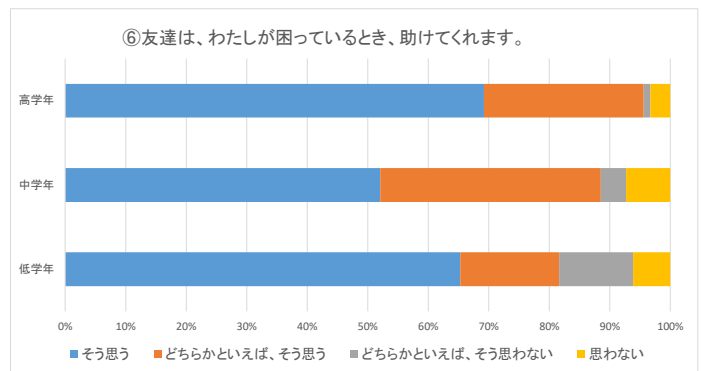
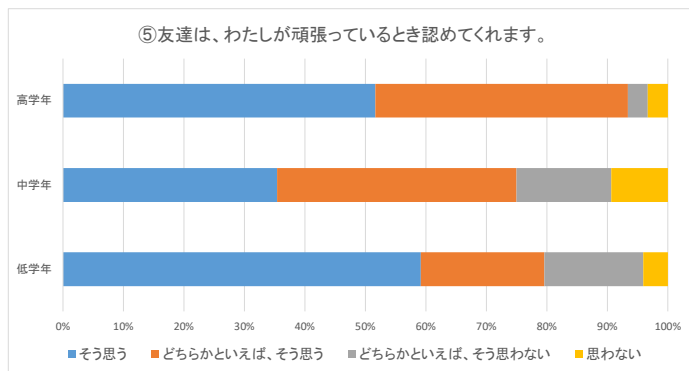
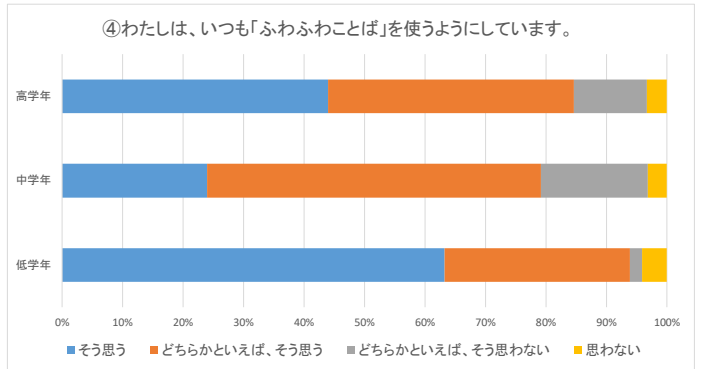
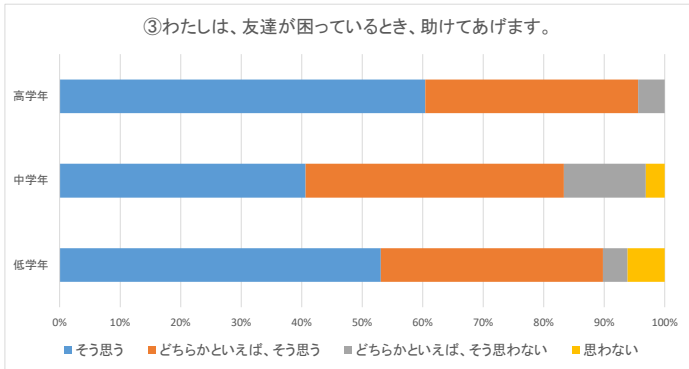
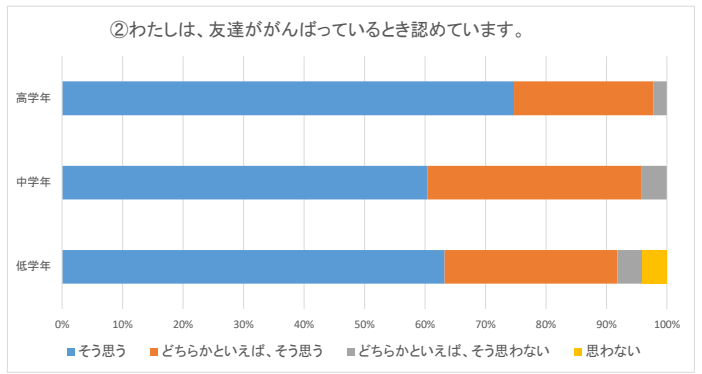
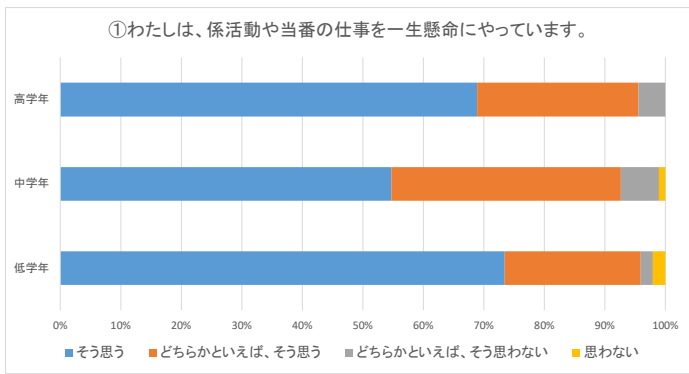
【たてわり活動】・たてわりでの活動、挨拶週間などは子どもたちの成長に大きく関わると思うので、継続してほしいです。・たてわり遊びはとても良いと思います。6年生が1年生の朝の準備を手伝っている姿、1年生に好かれて追われている姿などとても良い環境だと思いました。上級生は見知らぬ保護者にも前を通る時に挨拶をしてくれて、学校の指導が活かされているんだと思いました。

【児童支援】子供同士のトラブルがあったとき、先生方がすばやく対応、そして解決していただき、感謝しています。



〈考察〉

- ①昨年度とほぼ同じで、ほとんどの児童が楽しく学校生活を送っている。一方で、「そう思わない」児童もおり、低学年では5%ほどの児童が「そう思わない」と答えているので、一人ひとりの様子をよく見ていく必要がある。
- ②「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が、昨年度と比べ、高学年ではほぼ変化がなく、中学年では減っており、低学年では増えている。低学年は、めあてを意識した生活を送ることができているが、中学年は、めあてを意識することが難しいと感じている児童が増えてきていると考えられる。めあてを意識して生活し、達成感を味わうことができるような取り組みにしたい。
- ③中学年では、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答が昨年度と比べ、減っている。あいさつ運動は、例年通りの活動はしていないが、継続した働きかけが必要だと考える。
- ④すべての学年で8割以上の児童が合言葉を大切に学校生活を送っている。今後も教育目標を意識して授業づくりをしたり、学校生活を送ったりすることができるよう支援していきたい。
- ⑤高学年では、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が減っている。今年度は校庭の改修工事があり、コロナで自粛生活が続いたりしたことも理由として考えられる。どの学年においても引き続き、健やかな体づくりへの取り組みを続けていきたい。
- ⑥どの学年においても、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が昨年度に比べ、減っている。引き続き、学校生活のきまりを意識して行動できるよう指導を続けていく。
- ⑦どの学年も、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答が9割を超えており、たてわり活動を楽しんでいる児童が多いことが分かる。一方、どの学年にも「そう思わない」と答えた児童もいるので、高学年は、達成感や充実感を味わえるようにしていくこと、低・中学年に安心して活動できるように支援を続けることが必要だと考える。



〈考察〉

- ①全ての学年で90%以上の児童が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えており、多くの児童が係活動や当番活動に一生懸命取り組んでいると思っていることが分かる。また、高学年になるほど「思わない」と答える児童が減っていることから、学年が上がるごとに自分の仕事に責任をもって取り組もうとしている姿勢がうかがえる。
- ②「わたしは、友達頑張っているときに認めている」と回答している割合に比べて、⑤「友達はわたしが頑張っているときに認めてくれる」と感じている児童の割合が少ない。
- ③「わたしは友達が困っているときに助けてあげている」と回答している割合より⑥「友達はわたしが困っているときに助けてくれている」と感じている児童のほうが多い。友達にしてもらったことを好意的に受け止めることはできている。
- ④のふわふわ言葉を意識しながら、様々な場面で互いの考えや気持ちをうまく伝えたり、互いの頑張りを認め合ったりできるような支援を続けていきたい。
- ⑦⑧の設問では、高学年になるほど自分のことを受け止めてくれる存在として教員のことを好意的に捉えていることが分かる。一方でどの学年でも受け止められていないと感じている児童がいることから、児童の誰もが安心して話せるような関わり方を、教職員として心がけていかななくてはならない。